

◇みどころ

第一部・第二部上演の『菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかみ)』は、『義経千本桜』、『仮名手本忠臣蔵』とあわせ、人形浄瑠璃三大名作と呼ばれています。菅原道真が太宰府に左遷された歴史上の事件と天神伝説を背景に、親子・兄弟の情愛、運命に翻弄される悲劇が描かれます。

五段構成の本作を、「初代国立劇場」文楽公演の集大成として、5月文楽公演と9月文楽公演をかけて全段上演いたします。どの段もみどころ・ききどころの溢れる名作を、ぜひ「初代国立劇場」にてご堪能ください。

5月に上演する初段、二段目は、あらぬ疑いをかけられて都を追われる菅丞相(かんしょうじょう＝菅原道真)に降りかかる暗殺計画、疑いの原因を作った菅丞相の養女・苅屋姫(かりやひめ)との別れなど、物語の発端から核となる場面が続き、文楽の魅力を存分に感じていただけること間違いなし！

第三部の『夏祭浪花鑑(なつまつりなにわかがみ)』も指折りの人気作で、国立劇場でも何度も上演されています。恩義のある武士のピンチに集う3人の侠客。その1人である主人公・団七九郎兵衛は、金に目がくらんで悪事に加担した育ての親・三河屋義平次を…。

市井の出来事を素材とした世話物ながら、時代物にひけをとらないドラマをお見逃しなく！